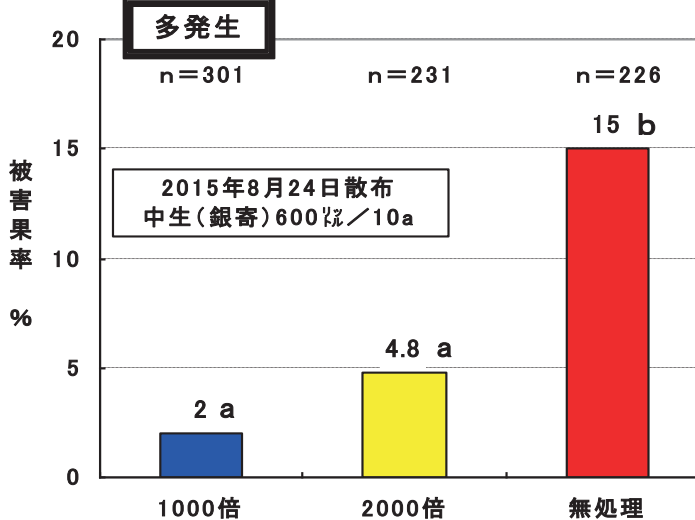
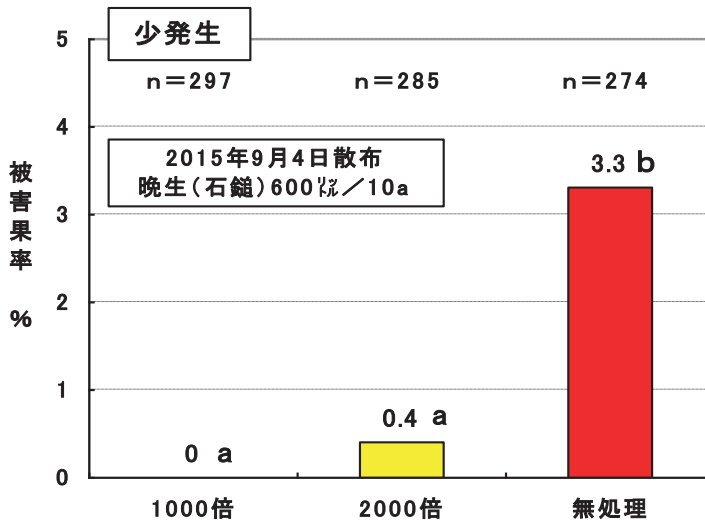
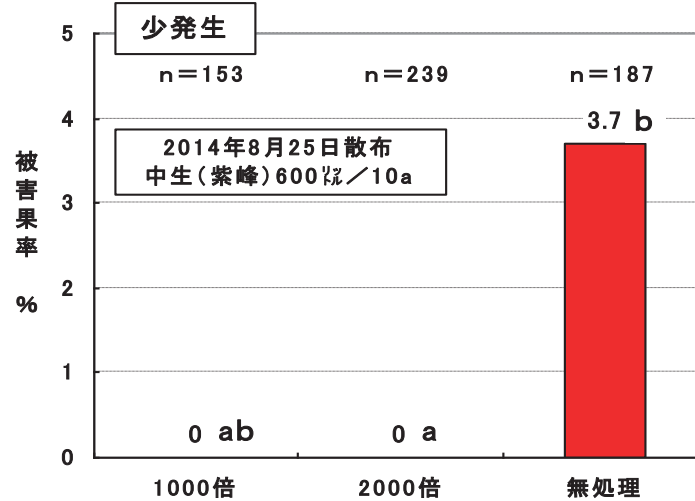
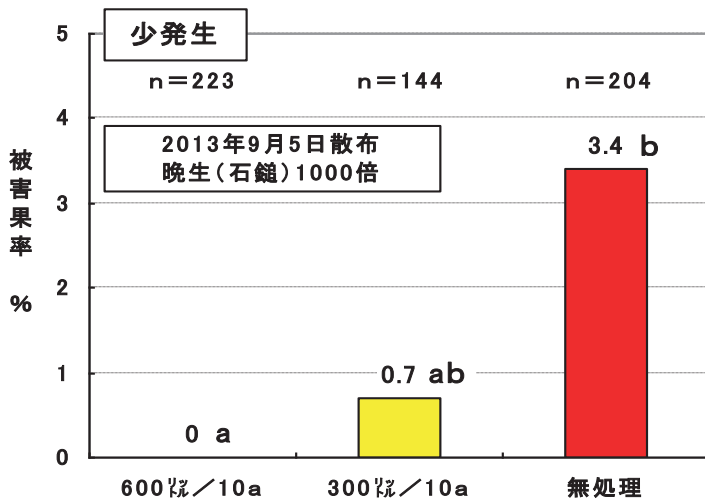


クリシギゾウムシの生態と防除2

平成25～27年の3年間、県下クリ産地の3地域のクリ園において、早・中・晩生品種別に立木防除を実施した。早生は8月上旬の1回散布のみ、中生はそれに8月下旬を、晩生はそれに9月上旬を、それぞれ加えて2回散布とした。8月上旬はモモノゴマダラノメイガの防除で全品種にエルサン乳剤を、8月下旬と9月上旬はクリシギゾウムシの防除で中・晩生にパーマチオン水和剤を、それぞれ散布した。



結果の概要

1. 早生: クリシギゾウムシ被害なし
→ 防除の必要ない
2. 中・晩生: クリシギゾウムシ被害あり
→ 防除の必要あり

以下パーマチオン水和剤(600g/10a)散布

- 1) 少発(無処理区被害果率5%以下)条件

左図(上2つと左下1つ)

- ・1000倍: 被害果率0%
- ・2000倍: // 1%以下

- 2) 多発(無処理区被害果率15%)条件

左図(右下1つ)

- ・1000倍: 被害果率2%
- ・2000倍: // 4.8%

中生8月下旬、晩生9月上旬のパーマチオン水和剤1000倍の各1回散布(600g/10a)で、少発条件で被害果率0%に、多発条件でも無処理の1/7以下の被害果率に、同2000倍散布でも、少発条件であれば被害果率ほぼ0%に、多発条件でも無処理の1/3以下の被害果率にそれぞれ抑制できた。

図 クリ立木散布でのクリシギゾウムシに対するパーマチオン水和剤の被害抑制効果
同一アルファベットの処理区間は5%水準で有意差なし(Fisherの直接正確確立検定、多重性はボンフェローニ補正)

